

2013年8月20日 第504号 (隔月20日発行)

アジアの友

The Asia-no Tomo

8-9

AUGUST-SEPTEMBER

2013

プラティープ ウンソンタム 秦さん
バンコクのスラムの現状と変革への取組み
日本語文学のバイリンガル性(1) 郭南燕





▲ 優勝した王さん (左)

卓球大会&カラオケ大会を開催

アジア文化会館では去る 7 月 26 日 (金)、卓球大会とカラオケ大会を開催しました。

卓球大会は 8 名の参加者が真新しい卓球台でトーナメント戦を行い、王子一さんが優勝しました。

また、第一回カラオケ大会には小木曾理事長を含む 7 名が参戦。それぞれ个性的で素晴らしい歌唱力を披露してくれました。こちらは金震宇さん (写真左下) が優勝し、アンコールに応えました。



2013 ABK カラオケ大会



アジアの友

2013年8-9月号 第504号

目次

	巻頭
2	ブラティーブ ウンソンタム 秦さん バンコクのスラムの現状と変革への取組み
	評論
13	「日本語文学のバイリンガル性(1)」 郭 南燕
	意見体験
18	「ベトナムの教育と日本留学の成果」 ニェン ヌゴック アン
	コラム
20	泰日工業大学 奮闘記 水谷光一
	MEMBERS
24	ご入会、ご寄付のご報告(2013年6月、7月)
	ご報告
25	ABK 同窓生募金(2010年6月~2013年7月)
32	学校法人 ABK 学館設立記念式典及び新校舎竣工式のご案内

「知友会通信」はお休みます。奨学金情報は日本留学情報サイト「Japan Study Support (JPSS)」にてご覧いただけます。<http://www.jpss.jp/ja/>

<表紙> ラト・ヤートラー(山車の行進)祭り(インド・オリッサ州・ジャガンナート寺院) <Photo by Ranganathan Mulvadi R>



プラティープウンソンタム 秦さん

バンコクのスラムの現状と 変革への取組み

バンコクのスラムの貧困層支援に身を捧げ“スラムの天使”として、1970年代後半から1980年代にかけてその活躍がテレビや新聞などで盛んに取り上げられたプラティープさん。まだ記憶に残っておられる方も多いのではないかと思います。自らもスラム出身者であり、これまで一貫してスラム地域改善のために尽力してきたプラティープさんは、2000年からの6年間半は上院議員として政府の側からもスラム改革に取り組む経験をさせていただきました。

そのプラティープさんが日本のNPOが主催する講演会およびシンポジウムに講演者として招待され、この8月に来日されました。今回、このイベントを主催したアジアコミュニティセンター21 (ACC21)※の御協力を得て、プラティープさんのお話をうかがうことができたので、ここにご紹介いたします。

なお通訳として御参加いただいた御主人の近畿大学教授・秦辰也さんには、補足説明などの貴重なお話をいただきました。

スラムの生活環境改善のために

<編集部> プラティープさんは1979年10月にアジア文化会館に3日間泊まられています。ちょうどマグサイサイ賞を受賞された翌年で、来日の折、ABKのタイ留学生の呼びかけで、プラティープさんのお話や活動報告をうかがう機会を得、歓迎会を持ちました。当時プラティープさんは20代後半でしたが、16歳の時に自身の暮らすクロントイ・スラムに『1日1パーツ*』学校を始められ、教育機会のないスラムの子供たちのための教育を行い、またスラムの子供たちの生活環境を良くするため、様々な活動を行っていることを知り大変感銘を受けました。今日は、来日の機会に、34年振りにABKをご訪問くださり、心から歓迎いたします。(※1パーツ=約3円、2013年8月末現在)

プラティープさんはマグサイサイ賞の受賞金で設立されたプラティープ財団の活動を中心に、スラムを足場に長年タイの貧困層の子供たちの為の活動に尽くされてきていますが、その後のタイの経済発展の中でスラムがどのように変貌してい

るのか、その中での問題等、財団の活動を中心にお話しいただけたらと思っております。まず、現在の活動について教えていただけますか。

<プラティープ> ドゥアン・プラティープ財団の事務局長をしているほか、私個人としては他に二つの大きな仕事で役職に就いています。一つは、港湾局内に設置されたクロントイ・スラムの移転問題に関する委員会の委員長として地域全体の居住に関連する問題に取り組んでいます。もう一つは、女性のエン

プラティープ・ウンソンタム・秦 (Ms.Prateep Ungsongtham Hata)
社会福祉活動家、ドゥアン・プラティープ財団事務局長 (1978年～)、元上院議員 (2000～2006年)。

1952年タイ・バンコクのクロントイ・スラムに生まれ、6歳の頃から路上で物売りとして働きはじめる。7歳で4年制小学校に入学。小学校卒業後も商船のさび落としなどをして働き、そこから得るわずかな賃金を貯金して15歳のときに中学校夜間部へ入学。卒業後教員養成学校へと進学する。1968年、16歳の時『教育こそが生活を大きく変える原動力になる』と確信し、姉ミンボンと共に私塾を開設し子供たちに読書きを教え始める。この時、1日1パーツの文具代を徴収したことから「1日1パーツ学校」と呼ばれるようになる。こうした活動が世に認められ、1978年フィリピンにてラモン・マグサイサイ賞(社会福祉部門)を授賞。報償金20,000米ドルを投じて1978年8月31日、ドゥアン・プラティープ財団を設立。理事長に当時のクリアンサク・チャマナン首相を迎え、スラムの子供たちへの教育を目的に活動をスタートする。1980年には傑出した若者に送られるアメリカの「ロックフェラー賞」を受賞。報償金10,000米ドルを投じて共働きや家庭内に問題がある子供たち(0歳から3歳まで)を預かる「スラムチャイルドケア財団」を設立する。

●主な受賞歴

1074年 NHK放送よりアジア地区の傑出した若者に贈られる青年賞を受賞、
1978年 フィリピンのマグサイサイ財団よりラモン・マグサイサイ賞を受賞、
1980年 アメリカのロックフェラー基金より世界の傑出した若者に贈られる青年賞を受賞、1998年 ウェティ・プーイン(女性フォーラム)番組より、公益のために闘った人物としてサトリ・ベトエンガム(輝く女性)賞を受賞、
2004年 スウェーデンのNGOチルドレンズ・ワールドより、世界の子供による投票で選ばれる「グローバル・フレンズ賞」及び「世界子ども賞」を受賞、
2007年 ユネスコより、傑出した仏教徒女性に贈られる賞を受賞



プラティープ財団

クロントイ・スラム

パワーメント事業を行うために設置された「女性のための基金」のバンコク都全体の委員長をしています。

<編集部> では、プラティープ財団の現在の活動について教えていただけますか。

<プラティープ> 財団の活動は以前と大きく変わることはなく、教育を中心に20程の事業を展開しています。具体的には教育推進事業、スラム地域開発事業、人材育成事業、緊急支援事業の4つの分野を柱に、スラム地域改善のための様々な事業に取り組んでいます。

教育推進事業で行っている奨学金の支給は幼稚園児から大学生まで年間2,500人に行っており、総勢199,000人以上になりました。その奨学生からつい最近初めて博士号を取った女子学生が出て、すごく勇気づけられたところです。しかも彼女は国立のチュラロンコン大学医学部を卒業したんです。スラム地域開発事業では、幼稚園や保育園をサポートする事業などをここ最近ずっと行っているほか、スラム地域で遊べるスペースを確保して

子供たちに遊具を作ってあげるなどして地域の中での遊び場作りを行っています。また、高齢者支援、防災など、スラムに起りうる様々な問題に取り組んでいます。人材育成事業としては、エイズ予防対策プロジェクトや、麻薬中毒の子供たちを再生させるための「生き直しの学校」プロジェクトなどを行っており、緊急支援事業では、消防隊の組織などスラムの防災に関するプロジェクトを行っています。また、1968年に私が最初に始めた1パーツ学校は、その後公立の小中学校になり、今も財団の隣にあります。

<編集部> 近年タイは順調に経済発展を続けていますが、バンコクのスラムは減っているのでしょうか。

<プラティープ> いいえ。スラムの人口は増えていると思いますし、スラムの地域数もほとんど変わっていないと思います。

<秦> スラムも行政によって定義がいろいろあるので、どこまでがスラムなのかというのが難しいんです。そういう意味では外見上スラムには見えないような所もまだスラムに

数えていたりします。だから今バンコクでスラムと呼ばれている1,900か所全てがものすごく劣悪かということ、そうではありません。

スラムの数え方も、昔からある都市コミュニティであったり、スクオッター(squatter)地区とって、不法占拠地区の所と、住宅公社が入って改善されている所、郊外にある所など、厳密にはいろいろ分類されています。ちなみに住宅公社は1ライ(1600㎡)に15世帯以上の家屋があれば1か所と数えていますが、それを全部含めて1,900か所、また、全国だと5,500か所と言われています。

終わらぬ麻薬問題との戦い

<編集部> 34年前来館された際の講演で特に印象的だったことは、スラムに麻薬が蔓延していて、それが子供たちにまで及び生命の危機に瀕する子供もいるということでした。そして、そうした子供を一人でも救うために危険をも顧みず、スラムの状況の改善にも取り組んでおられたことです。

<ブラティープ> 麻薬問題は昔からずっと今まで続いています。そうした中で、タクシン政権5年間(2001～2006年)のうち、3年間はこの問題が静まっ

た時期がありました。

麻薬問題というのは構造的な問題で、経済や政治、近隣諸国などが関わりあった複雑な問題です。こうした構造の中で警察や軍は政治と繋がっていますから、首相が陣頭指揮をとり厳しく取り締まる中で、密売組織の人間や警察側の人間などが殺害されるといった事件が続発しました。このためNGOなどからは「やり方が強引だ」という非難が相当あったのですが、その取り締まりがあつてスラムで麻薬密売をしている人たちがずいぶん捕まり、いなくなって、麻薬が物凄く減ったわけです。

具体的に言うと、クロントイには100人くらいの麻薬密売人がいたのですが、このうち10人が取り締まりで亡くなりました。全

<クロントイ・スラムについて(ブラティープ財団HPより抜粋・編集)>

クロントイ・スラムは約80,000人が住むバンコク最大のスラム。バンコクの玄関港であったクロントイ港へ仕事を求めて多くの人々が集り、もともと居住者がほとんどいなかった湿地帯にスラムが形成された。住居は廃材を使って建てられ、下水道設備も整備された道路もなく、密接して建てられた家々から出た汚水の上に渡した板の上を子どもたちが走り回っていた。雨期になって降水量が増えると床下の汚水は家の中まで浸水するといった状況で、衛生状態はひどいものだった。またスラムの人々は一般の人々が受けられる公共サービスを全く受けられない状態にもあり、出生証明書が無いために十分に教育をうけられず、適当な職業に就くことも不可能だった。

こうした中、1968年ウンソンタム家のブラコーン(現在は改名しミンボン)、ブラティープ姉妹がスラムの子ども達の教育のために「1日1パーツ学校」と呼ばれる私塾を開く。これがスラムにおける社会開発の発端となり、スラムの問題と姉妹の活動はマスコミや大学の研究などを通して世間に広く知れ渡るようになる。住民達も次第に結束力を強め、住宅公団との交渉を何度も続ける中で人々は様々な事を学び、政府とも直接交渉をするようになっていった。

現在家々の間の路地はコンクリートで埋められ、水道や電気などのライフラインも整備された。ウンソンタム姉妹が始めた「1日1パーツ学校」はバンコク都に移管され、スラムの中の立派な小中学校となった。また、ドゥアン・ブラティープ財団をはじめ、国内外のNGOの働きにより地域の発展、教育レベルの向上、麻薬・HIV/AIDS感染の予防など様々な取り組みが盛んに行われている。

国では2,000人以上の人がこの取り締まりに関連して殺害されており、人権問題ということでマスコミなどに非常に大きく取り上げられ、タクシン政権は責め立てられました。

しかし、人権云々を言う人の多くは、スラムの中の人間ではなく、貧困層の人たちの本当の気持ちをなかなかみ取ってくれないところがあります。クロントイの場合は1,000人の麻薬に手を染めていた人がいなくなり、亡くなった人には気の毒ですが、本当にその時は地域が物凄く平和になったんです。

<編集部> 強引ではあったもののスラムで暮らす子供たちには良い結果になったわけですね。

<プラティープ> またタクシン首相は警察の闇金といいますか、博打を見逃す際などのいわゆる“袖の下”が年間どのくらいになるのかという調査をチュラロンコン大学の先生に依頼して行ったのですが、そこで年間500億バーツが裏金として動いているという実態が明らかになりました。そこでタクシン首相はそういうお金を表に出して、子供たちの奨学金や社会事業に使うというやり方をしたんですね。その結果、政治的には貧困層の指示を得たのだと思います。

<編集部> プラティープ財団としては、これまでスラムの麻薬問題に対してどのような対策をとってきたのですか。

<プラティープ> まず、最初の頃は薬草などを使って麻薬治療をしているサラブリ県のタムカボク寺院という有名なお寺が行っている1週間ほどの更生プログラムに子供たちを送っていました。それで一時的に治るのです

が、また元に戻ってしまう子が多かったため、次にバンコクの麻薬中毒者の治療を行っているタニヤラック病院の21日間の治療プログラムというのを試してみました。しかし、なかなか完全には抜け出すのは難しく、何か良い方法はないかと思っていたところ、南部のチュンポーン県で小学校の先生をしているソムサクさんという方が協力を申し出てくれて、先生の家近くの開拓地のような自然豊かな所に「生き直しの学校」を作り、そこに子供たちを送って治して行くというプログラムを始めました。麻薬で捕まって一生を棒に振るような子供たちを立ち直らせようということで、最低3年間はそこで生活してもらいます。麻薬問題は心の問題というか、身体は一週間で治りますが、心や頭の方は短期間には治りませんから。

この麻薬問題はもちろん昔からの問題で、それこそ55年前のサリット元帥時代からアヘンやヘロインの取り締まりを行ってきています。今はアンフェタミンとって覚せい剤のような錠剤状のものが多く出回っていますが、現在も大きな問題です。

チュンポーンの学校は少年たちを中心に保護して実施しているのですが、その後、カンチャナブリ県にも一つ、今度は少女たちを中心に家庭崩壊や虐待、レイプ、少女売春といった被害を受けた子供たちを中心に預かる施設を作りました。プラティープ財団ではこの2校を運営しています。

スラムの変化と希望

<編集部> スラムはプラティープさんが学

校を始めた頃と現在では、タイの経済発展を考えると相当変化してきていると思いますが、スラムがどう変化してきているのか、そしてその中でプラティープ財団の役割はどうか等お聞かせ下さい。

<プラティープ> 国の開発、発展のスピードに貧困層の人々がついていけなくなっているというのが現状だと思います。また、ただ読み書きができるというレベルで

は競争が激しく仕事に就くのは難しくなっています。ですからその点はしっかり支援しないといけないと思っています。しかし、スラムの外観といいますか、水道、電気、道路といったインフラはずいぶん整ってきたので、住環境は非常に良くなってきていると言えます。以前は、確かにドブ板を渡り歩き、水道も電気も完備されてない住環境でしたから。また、現在はスラムの各コミュニティーが団結して、いろいろな問題についてお互いに話し合いをしています。なお、雇用を考える上では貧困層が必要な知識を得る機会を私たちが設けるということが大切だと思っています。

<編集部> スラムの方々のための教育や職業訓練ですね。

<プラティープ> タイ社会の教育システムの中では、貧困層の人たちのための教育というのはあまり関心を持たれていません。またスラムの子供たち自身も従来の教育システムの中だけでは、何かの「プロ」になろうという意思は生れず、これまでのように目の前の



「生き直しの学校」で子供たちと

生活のために、単純なことで簡単にお金を稼ごうとしています。また一方、最近では物を仕入れてインターネットで売る、ということを始めると子供も出てきています。少し高い教育を受けて、その知識でそういった商売を始めると子供も出てきています。

今は、スラムに公立小中学校もできましたので、財団は、いわゆる学校教育は行っていません。しかし、財団を通じて先ほどお話ししました奨学金とか、もう一つは幼児教育の中でモンテッソーリ教育法を推進しようということで教材開発をしたり、保育士の研修をしたり、特にスラムの保育園で普及させて行くための取り組みを行っています。

<編集部> 財団は今ではスラムにある様々な問題に取り組み、スラムの変革、改善のための多くの事業を行っているのですね。

<プラティープ> 今、タイを含めたASEANの経済的な発展と繁栄が注目されており、タイはある意味その中心にいます。そして、2015年のASEAN経済共同体(ASEAN



財団の幼稚園で園児たちと

Economic Community : AEC) 発足に向けて、経済、文化、政治的な安定というのがキーワードとして挙げられています。中でも経済部門での自由化が進められており、その過程では、スラムの住民も含めた貧困層も視野に入れながら、その地域を改善し同時に経済も発展させていかなければなりません。つまり貧困層の居住地域の環境改善に取り組まなければならないのですが、スラムの多くはいわゆる不法占拠地区と言われていて、違法に居住している地区がまだ多くあります。

クロントイ地区の場合、地主は港湾局なのですが、他の地域を見ると、王室財産管理局や財務省、鉄道局など公的な機関の土地にあるスラムも多くあります。そうした所で政府側としては住宅公社や、Community Organization Development Institute (CODI) という、特にマイクロクレジットを中心に組合を作って改善を図っていくための団体が、居住環境改善や雇用促進を行っています。

<編集部> 不法占拠地区とはいえ、改善や

雇用促進を支援するための組織、仕組みが出来ているということですね。

<プラティープ> クロントイ全域にはスラムが二十数か所あるのですが、その全体の敷地面積というのは2,353ライ(約376万4,800㎡)という広さで、今まではその敷地内の住宅改善というと、ほとんどトップダウンでやられる傾向がありました。しかし政府が変わり民主

化が進むと、徐々に地主と住民側との対話が増え、大きな変化として、ある意味参加型のまちづくりのような状況に変わってきています。プラティープ財団はそこでも役割を担っていますが、私はこれとは別に特に緊急を要するスラムの中の123ライ(約19万6,800㎡)の地域の開発にも関わっています。

この123ライの土地はもともと港湾局のものなのですが、50年前に軍が皮革工場やバッテリー工場などをつくり運営していたところでした。しかし他の省もこの土地を使いたいということになって、6年前の仏歴2550年(2007年)に政府がこの皮革工場とバッテリー工場を廃止させたんです。そのため働き口がなくなったり住み処が無くなったりする人たちが大勢出て、何とかしてほしいということで私の所に相談に来たんです。

そこで私は住民たちと協議し、港湾局を管理している大臣に、その123ライの土地を整備してフラット(集合アパート)を作り、近辺のスラムの人たちを住まわせればいいので

はないかという提案を出しました。大臣は私の案に賛成してくれて、首相を通じて国防省から土地を港湾局に返還してもらうことに成功しました。そして、港湾局の財産管理委員とスラムを含む地域の居住環境改善の小委員会を作り、私とその委員長をすることになりました。

<編集部> 以前は集合住宅を建てても、そこに移ったスラムの人達はあまり馴染まず、すぐに出てしまうという話をよく耳にしました。よく聞くと移ったけれどその家賃が払えず他の人に譲ってしまうといったことがあったと思いますが、今はどうなのでしょう。

<ブラティープ> 確かに、100人いればその半分はフラットを出してしまうという調査結果が出ていますが、いずれにしても将来的にスラムのままでは住民が住み続けるのは難しいと思っています。ですから、高層のフラットを作り、そこに入ってもらうことにならざるを得ないのではないのでしょうか。

フラットを出してしまう大きな要因として、家賃が収入に見合わないこと、仕事の場所から離れてしまうこと、またそれまでのバラックの家に比べて部屋が狭いこと等があります。ですから、新しいフラットはそれらの点を考慮しなければなりません。そこで、一つは部屋を大きめに作ることにしたんです。具体的には今まで2.7mだった天井を私が3.5mにする提案をしました。そうすると住民が自らロフト(中2階)をつくるのが出来ますから、2階建ての家に住んでいる感じになる。面積は狭いけど使える空間は増えるの

で、住民は快適に住めるのではないかと思います。

<編集部> 家賃を払うために必要となる仕事の問題や、現実的に収入を得ることが出来ない層の人たちをどうするかという問題もあるのではと思いますが。

<ブラティープ> 彼等がどうすれば仕事に就くことが出来るか私たちはわかっています。仕事に就ければ生活水準も上がりますから。そのためにはやはり職業訓練と教育が大切になります。

一方で貧困層の人のための効果的な土地活用も大切です。例えば先ほどの123ライの土地のマネージメントですが、人が大勢集まりますから、この中にビジネス地域を作ってコンビニエンス・ストアに場所を貸したりする。そしてそのビジネス地域で稼いだお金で、本当に仕事に就けず家賃を払えない家族や老人、障害者といった人たちを支援するといったことができればと思っています。

また、どうしても故郷に帰りたいという人にお金を支援することもあります。それよりできればここに残って、コミュニティの力で教育の機会を与えてあげたいと思っています。

大切なのは住民にいろいろな角度からスラムの地域開発のことを理解してもらうことです。スラムを貧困層のただの住み処とするのではなく、彼らが生きるための場所として規則を作り、将来を考えられる地域開発をすることです。私はその為の活動を行っていますが、幸い以前は敵対関係にもあった港湾局との関係も良くなってきており、港湾局側も



秦 辰也（はたたつや）

近畿大学総合社会学部 総合社会学科教授。社団法人シャンティ国際ボランティア会常務理事。福岡県出身。1984年からシャンティ国際ボランティア会（SVA、旧称曹洞宗ボランティア会）に参加し、タイのバンコクに赴任。カンボジアやラオス、ミャンマー（ビルマ）難民、タイの山岳少数民族、バンコクの都市スラム問題などに取り組み、1987年にタイの社会福祉活動家、プラティーブ・ウンソンタムと結婚。SVAバンコク事務所長、アジア地域事務所長、専務理事などを経て、2008年4月より現職。

住民側に協力を求めています。港湾局はコミュニティの会議や、住民の住宅視察といったことにも予算を付けてくれており、住民ときちんと協議をやっていこうという姿勢に変わってきています。

また、今はスラムも様変わりし、ミャンマー人、ラオス人、カンボジア人などがスラムに

住みついています。2015年のAEC発足後にはさらに周辺諸国からの人の移動が増えると思いますから、スラムも現状のままでは受け入れられなくなる可能性があります。

ですから、その準備をするためにも各地域のスラムのコミュニティのリーダーに資料や情報を共有してもらうようにしています。そして、外国人に部屋を貸すといったことについても、それぞれのコミュニティで規則を作ってもらい責任を持ってもらうなど、今そのための教育をしています。これは大切な仕事だと思っています。

新たな活動への取り組み

<編集部> それではスラムのお仕事以外で取り組んでいらっしゃる女性のエンパワーメント事業についてお伺いします。

<プラティーブ> 現在のインラック首相はタイで初めての女性首相ですが、出身が水商売の女性が多いと言われる北部であることから、それを理由に攻撃されることも多いんです。そういったこともあり、首相は女性をもっと強くしないといけないということで、77億バーツを拠出して「女性のための基金（Thai Women Empowerment Funds）」を作りました。現在全県に基金とそれを管理する委員会を置いて、各県の規模に応じた予算を配分しています。私もバンコク都の委員会の委員長を務めています。

この基金は2種類あって、一つは5人以上の女性のグループから職業に関するプロジェクトの企画書を出してもらい、20万バーツ以内の予算を付け支援するというもの。もう

一つは、NGOでもコミュニティー組織でも誰でも申請できるもので、料理講座や裁縫講座、健康のための講座といった女性を強くするための企画を出してもらい、これに予算を付けています。

＜編集部＞ プラティーブさんは変わらず弱者のための様々な活動に取り組まれていらっしゃいますね。ところで、スラムの子供たちは公立の小中学校に通っていますが、現在スラムの住民は、住民登録はしているのでしょうか。

＜プラティーブ＞ 以前より少なくはなりましたが、まだ登録していない人もいます。ただ、今は住民登録をしていなくても子供たちは中学校までは無償で行けることになっています。

＜編集部＞ スラムに外国人が増えているということですが、彼等は不法滞在者なのでしょうか。

＜秦＞ ミャンマー人やカンボジア人、ラオス人なども含めて外国人労働者として合法的に入ってきている人もいますが、そうではない人も大勢います。正確な数はつかんできません。

＜編集部＞ タイも豊かになってきましたが、生活保護制度等の社会保障制度は整っていますか？

＜プラティーブ＞ 生活保護としては、現在は60歳の人に月600バーツ。70歳の人に700バーツを出しています。90歳を超えると1,000バーツです。

＜秦＞ タイの住民登録制度は非常に進みました。障害を持っている人や高齢者などはき

ちんと役所に登録されれば、わずかではありますがお金が出てくることになっています。制度自体は始まって10年ぐらいしか経っていませんが、当初はたしか500バーツから、少しずつやり始めていました。また、タクシン政権下で始まった30バーツ医療制度*などは有名ですね。

(※ 自営業者や農民、貧困層など健康保険に入っていない人々を対象とした「ユニバーサルヘルスケア」。指定病院に行くことで誰もが30バーツ(約90円)で診療を受けられる。)

＜編集部＞ 今日お話を伺っていると、昔のスラムのイメージと今のイメージでは全然異なりますね。

＜プラティーブ＞ これからは更にいろいろな問題が出てくるでしょう。今でも、麻薬、暴力、喧嘩、そして経済問題といった基本的な問題は常にあります。これからは外国人の子供の問題が増えてくるでしょう。ミャンマー人たちは、スラムで生まれた子供をタイ人にするためにがんばっている。これからタイ人かミャンマー人か、混ざり合ってわからなくなっていくと思います。

その中でタイ人が競争に負けることも増えていくと思います。外国人労働者は本当に何でもやるという覚悟で来ていますから我慢強く愚痴も言わない。そして給与を上げろといった要求もしません。

＜編集部＞ なるほど、クロントイの内の問題も種々変化していますね。これだけ多くのプロジェクトを行っていますが、プラティーブ財団は政府をはじめいろいろなところから助成金を得ることができて、運営には問題

はないのでしょうか。

<プラティープ> 予算についてはその時々です。たくさん予算がつく時は仕事もたくさんありますし、少ない時は仕事も少ない(笑)。全体としては海外からの支援が減少傾向にはあります。

<秦> タイの国民所得の上昇とともに、海

外からの支援がタイ全体としてはずいぶん減ってきているので、助成金についてはそれを補うようにタイのいろいろな省庁が少しずつ予算を出しているという感じです。一番大きいのがSin Tax(悪行税)で、酒税とかタバコ税といったものの一部ですが、特に健康問題を扱う機関などから物凄い

お金が抛出され、それがソーソー(タイ保健振興財団)を通じてNPOなどに流れています。こういったところはタイの中で明らかに変わってきていますね。

<プラティープ> 政府からの助成については良いコネクションがあれば、たくさんもらえるというところもあります。しかしこうした国の助成金については、タイのお金持ちは良く思っていないです。彼等は貧乏人が、自分の財産を持って行ってしまおうと考えていますから(笑)。



ご夫婦でABKにお越しいただきました

<編集部> 本日はお忙しい中、久々にABKにお越しいただきお話を伺うことができ、ありがとうございます。これからもスラム地域をはじめとしたタイの弱者の方々のために、御活躍されることを期待しております。

<ドゥアン・プラティープ財団 มูลนิธิดวงประทีป >

(住所) Lock6, Art Narong Road, klong Toey Bangkok 10110 THAILAND

(公式HP) <http://www.dpf.or.th/jp/>

(活動内容) 現在事業は次の4つの分野に分けられ実施されている。

1、教育推進事業

- ・教育里親制度
- ・芸術プロジェクト
- ・難聴児教育
- ・おはなしキャラバン
- ・ドゥアン プラティープ幼稚園

2、スラム地域開発事業

- ・スラム地区の幼稚園支援プロジェクト
- ・クロントイ信用組合
- ・高齢者プロジェクト

3、人材育成事業

- ・青少年育成プロジェクト
- ・エイズ予防対策プロジェクト
- ・「生き直しの学校」プロジェクト

4、緊急支援事業

- ・クロントイ消防隊
- ・津波プロジェクト

プラティープウンソムタム秦さんに聞く

日本語文学のバイリンガル性 (1)

郭 南燕

国際日本文化研究センター 准教授

1 近年の日本語文学の作家

ヨーロッパ語圏の話者が日本語で文学を書いたことは、ロシア・ウクライナ人のワシリイ・エロシェンコの『夜明け前の歌』『最後の溜息』(一九二一年)と、セルゲイ・エリセーエフの『赤露の人質日記』(一九二一年)の出版までさかのぼることができる。しかし、一九七四年、イタリア国籍、アルゼンチン在住のドメニコ・ラガナが国際交流基金の招聘で来日し、『朝日新聞』に「ラガナ一家のニッポン日記」を連載した時、そのエッセイは日本語執筆ではなく日本語訳だと思込まれた。ラガナの表現を借りれば、「紅毛」が日本語で書くことは信じられなかったのだ。そのため、著者はその後に出した作品の最後に「原文は日本語」「日本語で執筆」と付け足すような工夫を繰り返している。

一九八七年、リービ英雄が「星条旗の聞こえない部屋」(『群像』一九八七年三月)をもって日本の文壇に登場して以来、外国人が日本語で書いた文学作品が数多く生まれてきた。リービの登場について当初、小森陽一は、英語を母国語とするアメリカ人

が日本語を上手に操り、並みの日本人の「日本語」の使用者となったことから、上下関係にある英語と日本語の「力関係」の「転倒」を見ている。この発言から見れば、朝鮮語や中国語が依然として日本語の下位にあるという暗黙の了解が存在しているようだ。そのためか、アメリカ人の日本語創作は、台湾人や朝鮮人の日本語創作とちがって、「奇異」な感じを日本人読者に与えてしまったようである。

実際、戦前から台湾人や朝鮮人の日本語文学がすでに作られているのに、「信じられない」という声はなかった。一九七〇年、早くも大江健三郎が在日朝鮮人作家金石範の小説について、「非常なショックのような衝撃を受け」、「われわれ日本の作家が、日本語の世界でなし遂げていない、新鮮な発見というものがあ」り、「どうしてこういう面白いことば、面白い表現というものが見つかるんだろうか」と称賛していることを思い出せばよい。

一九八〇年代後半から二〇一〇年代まで、アジア人、欧米人を含む外国人が非母語の日本語で文学を創作することはさほど珍しくなくなっている。しかも、その内容と文

体が積極的に評価されている。富岡幸一郎は、リービの作品集『星条旗の聞こえない部屋』は、「たんに外国人が日本語で小説を書いたということよりも、明治の近代化における言文一致運動以来の日本語というものの可能性が、改めて今一度、根本的に問い直されたといってもいい、そのような衝撃力を持っていた」と指摘している。

デビッド・ゾペティの『いちげんさん』がすばる文学賞を受賞した時、新井満は、「作者のゾペティさんは、この世紀末の日本に突如として出現した新しいカミュになるのかもしれない」という興奮を表している。沼野充義は「ゾペティの書く日本語は本当にもう『ガイジンなのに日本語がお上手ですねぇ』といったお世辞の域をはるかに越えている。いや、むしろそれは、『ガイジンなのに』ではなく、『外国人だからこそ』日本人に真似のできない新鮮な文体を創り出せる可能性を示しているのではないか」と評価している。フェイ・ユエン・クリーマンは、「選択した言語である日本語で書く作家の登場は、日本語文学にとっての新たな時代と日本文学活性化の潜在的可能性を示唆している」と見る。

ドメニコ・ラガナ（一九七四年）、リービ英雄（八七年）をはじめとして、日本語作家を文壇登場順に挙げれば、アレックス・カー（九一年）、楊天曦（九二年）、デビッド・ゾペティ（九六年）、毛丹青（九八年）、アーサー・ビナード（二〇〇〇年）、ボヤンヒグ（二〇〇〇年）、田原（〇一年）、シリ

ネザマフィ（〇六年）、楊逸（〇七年）などがある。これらの作家は数多くの文学賞を受賞している。

リービ英雄

野間文芸新人賞（一九九二年）、大佛次郎賞（二〇〇五年）、伊藤整文学賞（〇九年）
アレックス・カー

新潮学芸賞（一九九四年）

デビッド・ゾペティ

すばる文学賞（一九九六年）

アーサー・ビナード

中原中也賞（二〇〇一年）、講談社エッセイ賞（〇五年）、日本絵本賞（〇七年）、山本健吉文学賞（〇九年）

田原

留学生文学賞（旧「ボヤン賞」（二〇〇一年）、H氏賞（一〇年）

シリル・ネザマフィ

留学生文学賞（二〇〇六年）、文学界新人賞（〇九年）

楊逸

文学界新人賞（二〇〇七年）、芥川賞（〇八年）

二〇〇八年、楊逸の『時が滲む朝』が芥川賞を受賞して時、川村湊は「世界的な快挙。日本文学が歴史を刻んだ証しだ。日本人でしか日本文学は書けないという思いこみをくつがえした。今後、異国籍の表現者が続々と現れるかもしれない」とコメントしている。一方、楊の日本語の「拙さ」を批判す

る声も少なからずあった。楊の文体の特徴と、日本語と中国語のハイブリッド性については、谷口幸代氏が具体的に検討してくれている（本書第二部所収）。

2 日本語の相対化

これらの作家は成人してから日本語と日本文化を習得している。彼らは日本語の特徴を外側からの視点で捉え、描写することが多いし、日本語を馴らすこと自体が、彼らの文学の一部分ともなっている。彼らの作品を通して、日本語話者は、日本語を再発見することができる。

リービの『星条旗の聞こえない部屋』の主人公ベンは、「ひらがなの世界、音だけの世界」に「ミステリーを感じ」、作者自身も「はじめて耳に入った日本語の声と、目に触れた仮名混じりの文字群は、特に美しかった」と回想する。リービは、山上憶良が朝鮮半島の渡来人という学説を引用し、憶良が日本のことを「のふ国」と歌ったのは、古代日本ではすでに「大陸文化と対比をなす形で日本語の」魅力が外来の人々に発見されたとみている。リービは、多民族の使い手をもつ「アルファベット一色の英語や簡体字一色の中国語」が「単一的」に見えて、逆に「単一民族」だと自他ともに信じてきた島国の言葉のほうが、「複合的豊かさを内蔵している」と指摘する。

その日本語で書いたリービの文学について、青木保は「文章の間の取り方というか、

呼吸のとり方が独特のもので、他の現代日本文学には見られない。言葉と言葉のあいだに動きが感じられます。万葉集や芭蕉から来る、日本文学の伝統を引き継ぎ、それに現代に生かされている。これぞ日本文学という感じです」と評価し、大江健三郎は、「英語を日本語に転換しえない状態での、精神のあり方を言葉にしてみようとする。あるいは翻訳不可能な言葉の場所で、かえって言葉について深く、人間について深く考え始める。そんな思考方法が、あなたの小説の骨格をなしているように思います」と褒めている。この二人は、リービの文学から日本文学の新しい方向性を見据えている。リービは、「日本人として生まれた人でも、日本語を書くためには、一度、『外国人』にならなければだめなのだ」と提案する。

中国語を母語とする田原は「いつも日本語はきわめてロマンチックで詩的な言語」と感じ、「漢字の表意や象形の特徴も備えているし、ローマ字の抽象的な特徴も備えている。そして、表記においては漢字、平仮名、カタカナ、ローマ字という四つの顔を持っているし、表現上においては、多義性がありながら高度な構造を持つ」と感じる。彼は、谷川俊太郎の「美しい詩の深い言葉」とその「やさしさの重み」によって、「日本語を徹底的に信頼」し、「日本語への愛情」を深め、日本語の「語彙の上を薄氷を踏むようにして歩みを進め」る感覚があっても、「日本語を手なずけよう」とする。小池昌代は、田原の詩集『石の記憶』（思潮社、二〇〇九年）

について、「彼の詩に、直喩、隠喩が湯水のごとくあふれていることも、驚かされる特徴のひとつである。(略)知っている漢字が見知らぬものとなり、見知らぬ漢字が、ごく親しいものとなる」と評価している。日本人の「知っている漢字」を「見知らぬもの」にしてしまったことは、日本語の異化を引き起こしていると言えよう。

中国の内モンゴルから来たボヤンヒシグは日本語の同音異義語へ素早く反応し、「上を向くことを仰向くという日本語は面白い。勝手な読みだが、上に青い空があるからなのかと思う。そのありとあらゆるものを知り尽くした青が完熟すると星空になる」と詩的に解釈する。ボヤンヒシグは、「自分の肉体である舌で、他国や他民族のことばを自分のもののように操ることは、実に至難の技であり、「ずっと日本語で書いていると、手が自分の手でないようになっている。その時、『外人』ということばの意味がよく分かる」と述べ、日本語によって自分自身が異化されたことを感知している。しかし、ボヤンヒシグは、日本語を操ることによって、自分の表現が豊かになる。「他の国のことばや文字で仕事をしている」と、「僕の心の形のない容器となって、どんどん豊かに膨らんでくるのを感じる」と書く。

楊逸は日本語との接触によって、新しい感受性を身につけ、文学創作をするようになる。「日本語がわかるようになったことで頭の中に窓が開いた感じで、新しい風景

が見えてきた。その風景を小説に採り入れながら、文学にも新しい風景を見せることができた」と言っている。彼女の作品は、日本語の常識をゆさぶり、芥川賞を受賞する初めての非母語の日本語小説となっている。

日本語と英語を同時に使用する水村美苗は「日本人のほとんどの作家は、日本語を書いているということにすこし無意識でありすぎるように思えるんです。言葉で自己表現していると思っているから、言葉が透明になってしまっている。言葉以前に自己なりの世界があると思っている。(略)日本語を母語としない人にぜひ書いてもらいたい」と言う。土屋勝彦は、日本語とドイツ語を同時に駆使する多和田葉子を、「あいまいな思考状態のままで書き進めることができる『母国語』とは違って、明確なヴィジョンを前提にしなければ、言語表現が不可能な『外国語』による自己表現のプロセスを明快に」示している作家と見ている。多和田自身はさらに一歩進んで、「母語ではないから規制されて不自由で、逆に母語だから自由に表現できる、というのは思いこみではないか」と指摘し、母語でも非母語でも、言語表現のための工夫は同じものだと考えているようだ。英語と日本語で書くアーサー・ビナードは、母語と非母語の違いを飛び越え、言語になる前の世界を見つめて、それを表現するための工夫に打ち込む。

(つづく)

ここにご紹介した評論：郭南燕著「日本語文学のバイリンガル性」は、『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』（郭南燕編著・三元社、2013年）に所収のものです。著者及び出版社の許可を得て本誌に再録します。なお、本文には53か所に註が付されていますが、本誌は学術専門誌ではないため省略させていただきました。2回に亘って連載いたします。本書は、国際日本文化研究センターが催した二回のシンポジウム「日本語で書く：文学創作の喜びと苦しみ」（2010年1月29日）、「日本語で書く：非母語文学の成立」（2012年1月27～28日）における研究発表と、日本で活躍する日本語を母語としない作家七人、田原、シリン・ネザマフィ、ボヤンヒシグ、楊天曦、リービ英雄、アーサー・ビナード、温又柔諸氏の発言をまとめたものです。編著者の郭南燕さんは、中国上海出身の元ABK在館留学生です。高校時代に堀辰雄を愛読したという日本文学通。



編著：郭南燕 発行：三元社
本体 4,000円+税

著者略歴：1962年中国生まれ。1996年博士（人文科学、お茶の水女子大学）、博士論文テーマ：「志賀文学の源流」。オタゴ大学上級講師・准教授を経て、2008現職。専門：日本近代文学。

主な著書：*Japan's Wartime Medical Atrocities: Comparative inquiries in science, history, and ethics*, Routledge, 2010（共編著）。

Tsugaru: Regional Identity on Japan's Northern Periphery, University of Otago Press, 2005（共著）。

『小笠原諸島—アジア太平洋から見た環境文化』（共編著）平凡社、2005年

（文責 小木曾）



しない、考えない、意見を言わない。私も周りの友達が発言をしないので、普段の授業中は静かにしていて、何か疑問があれば後で聞きに行くようにしています。なぜなら、今はそれが日本的スタイルだと思っているからです。

ではなぜ日本人学生が積極的に授業に参加しようとならないのか。その理由の一つは日本人の遠慮の精神にあるのではないかと思います。例えば昔はこの家の軒下にも風鈴が下がっていたと言いますが、今それがなくなってしまうのは、音が隣近所の迷惑になるからだと言いました。日本人はそれほど小さなところにまで気を使うわけですから、授業中に個人的な発言をして、他の人に迷惑をかけるようなことはしたくないと思っっているのではないのでしょうか。

また、日本人は失敗をとて恥ずかしいものだと考えているようです。日本人のプレゼンテーションはデータが細かく準備され、発表時の表現力はとても豊かで完璧です。つまり日本人は自信があれば喋るけどそうでないと喋らない。しかし、

学校は自分の足りない所を伸ばすために先生や友人から知識を得るための場所ですから、遠慮をしたり恥ずかしいと思っいたら何も得ることはできないと思います。

ただしそれらは勉強スタイルの違いですから、日本の大学に対する不満にはなりません。それ以上に大学では日本人から様々なことが学べて楽しい毎日を送っています。

例えば日本人の計画性や時間の管理、組織で大切な連絡・報告・相談の実行については、いつも感心させられています。先生や研究室の日本人学生を見ているとそれらはとても簡単そうに見えますが、私にはまだ真似できません。

また、大切なのは今の勉強が社会生活で起こる問題を解決するために役立つということですね。例えばある問題があるけれど、なぜその問題は発生したのか、原因はどこにあるのか、どの角度から分析して解決すればいいのか。学問と社会生活では問題の本身はまったく違いますが、それを解決に導くまでのプロセスという部分ではあまり変わらないと思います。

私がこのように自分の考えを整理できるようにしたのは、今の教授のおかげです。ベトナムで学んでいた時とはかく熱心でしたが、どうすればいいのかわからない。ただ闇雲に行動はしてみるけど何も解決しない、という状態でした。今、教授と学問以外の話題を話すことは

ないのですが、教授から教わっている問題の解決方法やその考え方は、生活上のあらゆる問題に応用ができるんです。

また、日本ではたくさんベトナム人大学院生と知合いました。皆国を良くしたいと考えている人ばかりで、日本人の、ベトナム人とは違うやり方とその生み出す結果を見て、ベトナムにいた時とは違う新しい発見をし、自分も変わらなないといけない。そう思いながら皆留学生生活を送っています。そんな彼等から、私はたくさん良い刺激を受けています。

私は、東日本大震災のあった2011年の9月に来日しました。東京は福島に近くて、放射能被害を考えれば安全とは言えませんが、ベトナムにいても公害や交通事故など、危険がいつも身近にあることは同じです。それより東京にいると

いろいろな勉強をすることができ。様々な人と知合になり、いろいろな社会を見れるというのは、私にとってかけがえのない、素晴らしい経験なんです。



ベトナムの教育と日本留学の成果

ヌエン ヌゴック アン (Mr. Nguyen Ngoc An) ベトナム

中央大学理工学研究科博士前期課程

ベトナムではまだ学校に行けない貧しい家庭の子供が大勢いる一方で、中流以上の家庭では子供の成績を非常に重視し、小学生から学習塾に行かせることが当たり前になっています。親は子供が本当は何に興味を持っているのか、どんな特技があるのか、彼等の潜在能力を知ろうとせずに、ただ進学させるために周りと同じ勉強をさせるんです。

ベトナムの親たちがこうした考え方になったのは、過去20年間の国の発展があるからです。ベトナムは20年間、海外からの様々な支援を受けて国のインフラをつくり、国内の企業を支援してきました。そしてその結果、企業の経営は安定し、社員の生活も保証されました。こうして「大学進学から就職⇒高収入で安定した生活」という公式が出来上がったのです。

たしかにこの公式は過去20年の発展の中では正しかったかもしれませんが、しかし3年前、リーマンショックによる経済危機があつてその状況は変わりました。今ベトナムでは銀行の経営が悪化しており、その連鎖反応で中小零細企業が次々と倒産して多くの人が職を失っています。

大企業の中でもリストラが進み、能力の低い

人は簡単に切り捨てられています。つまり今は本当に実力がある人しか生き残れないと言えますが、その人たちは子供の頃から自分が興味を持ったことを積極的に学んできた人たちです。親の言うままにただ単位をとってきた人た



ちは、今は負けてしまふ時代です。そして、そういう人が今のベトナムには多いということですね。今、ベトナムの社会は子供の教育について考え直さなければならないところに来ていると思います。

私は日本の小学生と交流したことがあります

が、彼等はずっとも元気で自信を持っていますね。私たちの小学生時代を彼等と比較すると、考え方も会話の中身もとても未熟だったと思います。その原因はやはり日本とベトナムの教育方法の違いにあるのだと思います。例えば日本の子供は自分で考え、親や先生に意見をすることができて、間違っていればそれを正してもらえます。ベトナムの子供の場合、大人に意見をするといいことは考えられません。親や先生から言われたら、その行動の意味がわからなくても、そうするしかないのです。仮に何かを言おうとしても、どう言えばいいのか、自分の意思を表せない。それが今のベトナムの子供です。

一方で、元気に自分の意見を言えたはずの日本の子供たちは、成長とともに変わってしまうのでしょうか。留学して半年ほど日本人の学部学生と一緒に授業を受けたのですが、どの授業でも日本人学生は意見を言いません。先生がディスカッションの時間を設けても、積極的なのは留学生や帰国子女ばかりで、日本人学生は静かに終了のチャイムが鳴るのを待っています。子供の頃はあんなに活発だったのに、今はエネルギーが全部なくなってしまったように、議論

泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

～発足から現体制まで～

水谷光一



▲ 穂積・ソムマーイ両先生像落成式のテープカット (2012年)

今日8月2日は毎年恒例の大学祭「TNI DAY」である。副題に“Techno and Cultural Festival”とあるように文化と科学技術が融合した大学祭である。キャンパスには所狭しと学生による屋台、ステージ、売店などが並び、大学祭会場の真ん中にあるTPA (TNIの親団体) 創設者の穂積五一先生とソムマーイ フントラクーン先生の銅像が学生を見下ろしている。まさかお二人はこんな賑やかな所に銅像となって学生の行きかう姿をご覧になるとは、想像もされていなかったであろう。

泰日工業大学 (TNI) は2007年6月、初

年度の教育がスタートした。タイ人と日本人双方が協力して技術学校を立ち上げる話はずでに1970年台前半からあった。TNIの親団体であるTPA (泰日経済技術振興協会) が設立されたのは、日本製品不買運動など、反日の嵐が吹き荒れる1972年である。創設者である穂積五一先生と日本留学から帰ったタイ人のOBたちは当初から「技術学校」設立を標榜していたようだが、様々な理由で公益法人の形でTPAはスタートした。同時にこの時「技術学校」の設立は将来の課題・夢となって残された。

そして2000年代に入るとTPA内で「TNI設立」について活発に論議されるようになり、



▲鳥居も設置された大学祭「TNI DAY」



▲学生による、みかこ踊り



▲コスプレコンテストの様子



▶お馴染のメイドカフェ

2005年 TPA 内に「TNI 設立委員会」が設置された。そして TPA が約 4 億バーツ（約 12 億円）を拠出し TNI を設立することが決まった。しかし 4 億バーツは実は TNI の建設にかかる費用のほぼ半分にしか満たなかった。

「半分もあるじゃないか、ぜひスタートさせるべきだ」と主張したのは当時の TPA 会長のスポン氏であった。

こうして、2007 年 TNI は 2 棟の校舎と社会人大学院生も含め 433 名の学生、そして約 30 名の教職員でスタートした。見学に来た受験生の父兄はだれもが「校舎が 2 棟しかない大学」に驚いたに違いない。

6 年が経過した 2013 年 7 月現在、学生数

はおよそ 3,500 人、教職員 260 人、校舎は実習用の建屋、食堂を入れて 4 棟になった。2014 ~ 2015 年には体育館とさらなる教室棟も完成する予定だ。

実習設備は徐々にだが充実してきている。開学時にはなかった研究室も燃料電池、高度材料加工、電子知能システム、などの分野が完成予定だ。また現在日本で学位取得中の教員も 5 名いる。

振返って、2007 年 1 月、TPI (TPA のパタナカーン研修センター) で 20 名足らずの職員で発足した TNI 準備室のことを考えると感慨ひとしおである。



▲ ASEAN 経済統合をテーマにした ASEAN コーナーも



◀ 日・タイ混合舞踊



▲書道コーナー



▲来場した高校生に着物教室

準備室では当時委員長だった現学長クリサダー先生も副学長先生も引き出しが片側だけの小さな机で仕事をしていた。私も自分のノートパソコンを持ち込んで第一日の仕事をした。毎日新しい事ばかりで楽しかったのを覚えている。(筆者がTNI準備スタッフに加わったのは2007年1月2日。実際には準備室は2005年くらいからあったようだ)

さて、それでは現在2013年6月現在の学部のラインアップを紹介しよう。

● 工学部

★自動車工学科 (定員 100 - 150 名)

自動車や自動車部品の製造に役立つ知識を履修。卒業後は自動車関連会社の技術者となることを目指している学生が多い。

★生産工学科 (定員 60 名)

金型作成など機械加工を伴う実習を通じ、生産機械に精通した人材を創る。就職先は多岐でこの分野の人材が一番ニーズが多いが、高校に行って、「生産工学」をPRしても、なかなか理解されないのが難点。

★コンピューター工学科 (定員 150 名)

C 言語、JAVA などを履修し、組み込み OS

などのプログラマーを目指す。

★経営・ロジスティック工学科(定員50名)

主にIE (Industrial Engineering) を学習。

★電気工学科 (2013年新設)

電気メーカー、エネルギー分野で働く人材を育成。

● 情報学部

★IT学科 (定員100名)

IT関連(日本でいうSEの分野も含む)の技術を習得。学位は理学士。生産業を望む学生はあまりいない。

★マルチメディア学科 (定員100名前後)

ビデオ編集、アニメーション技術など。主に効果挿入などの技術面からのマルチメディア業界就職(或いはフリー)を目指す。

★ビジネスIT学科 (定員50名)

ビジネスソフト、アプリケーションを扱える人材輩出を目指す。

● 経営学部

★工業経営学科 (定員100-150名)

品質管理など工場の管理を勉強する。土日開講の社会人コースあり。社会人コースは「ビジネス・工業経営学科」と称する。

★国際経営学科 (定員100名)

国際貿易実務、英語などを勉強し2015年のASEAN自由経済市場の到来に対応できる人材を育てる。

★会計・金融学科 (2013年新規開講)

● 大学院 (主に社会人対象)

★工学技術コース

★情報技術コース

★工業経営MBAコース

★上級企業経営MBAコース

全コース、学部社会人コースを入れて17コース。各コースを「学科」といわずにコースと称しているのはコース間の定員のやり取り、教員の兼用を容易にさせるためである。

● 学生活動

自動車部・・・電気カーレース、学生フォーミュラー大会に参加。その他、タイ舞踊、タイ音楽同好会、和・タイ太鼓同好会、合唱部など。

「反日」から始まったTPA～TNIの歴史だが、泰日工業大学に集まってくる学生は間違いなく「親日」である。TNI DAYの催事、ステージの出し物はほとんどが日本を感じさせるものばかりだ。日本風のファッションと髪型体験コーナー、メイド喫茶など学生が感じたままに「タイ・日本折衷文化」を謳歌している。

次回からはこれらの泰日工業大学に実際どんな学生がいて、どんな先生とどんな教室でどんな勉強・学生活動をしているのか、大学の生き活きた様子をお伝えしたい。

水谷光一 (みずたにこういち)

泰日工業大学(TNI) 学長室勤務。専任講師。専門は環境マネジメント、タイでの日系企業の人材育成。

かつては日本語をTPAなどで教えていた。在タイ歴1989~1999、途中5年ABK勤務。その後2014年にタイに戻り2007年から現職。

MEMBERS

〈会費とご寄付の報告〉

2013年6月

正会員

(1口)

東京都太田記念館	杉並区
山田 守一	港区
菊地 絵里奈	葛飾区
横見 美昭	文京区
木下 幹康／澄江	狛江市
中西 鶴子	名古屋市
木村 博／劉 彩品	川越市
森尾 正照	北巨摩郡
鈴木 八重子	志木市
樋口 隆一	文京区
小池 都	さいたま市
倉内 憲孝	池田市
橋本 イスラム ヌルール	坂戸市
関 正昭	豊明市

大田原 康彦／真澄	仙台市
広田 誠四郎	高崎市
岩尾 明	日田市
竹林 惟允	練馬区
忍足林基	江東区
HENG FU CHONG	ドイツ
大江 孝子	練馬区
奈良 自起	大田区

三鷹市
仙台市
横浜市
千葉市
所沢市
八王子市
西村山郡
武蔵野市
墨田区
北杜市
京都市
千葉市
逗子市
大田区
富士見市
川崎市
水戸市

2013年7月

賛助会員

(1口)

西川 恵	中央区
村田弘司	近江八幡市

正会員

(1口)

大西 一郎	狛江市
井上 美和子	文京区
齋木 史	足立区
近藤 清子	秩父市
長谷川 崇之	さいたま市

ご寄付

栗原 静子	氣仙沼市
齋木 史	足立区
近山 武子	横浜市
西垣 幸朋	足立区

おたより

呂 新一さんから Facebook に次のようなメッセージが寄せられていますので、ご紹介します。(小木曾)「今年6-7月号の「アジアの友」(アジア学生文化協会発行)に帯津三敬病院名誉院長帯津先生の講演録が載っています。帯津先生によると、1941年から大阪帝国大学医学部で「医学概論」を教えていた澤瀉久敬氏が、「人間には六つの面があり、1つは物体として、1つは生命として、1つは意識を持った生物として、1つは意志を持った生物として、1つは社会的な存在として、もう1つは思索者としての人間である。人を見たら、患者さんを見たらこの六つの面と全部付き合わなきゃいけない」とおっしゃったようです。至言です。」

帯 津良一先生講演会の記事を読みました。「100回」はすごいですね。文面から察するに当時の理科Ⅱ類の同窓生(クラスメート)と推察しましたが違うでしょうか。医学については最近「マスコミ(週刊誌を含む)」等にていろいろ取沙汰されており、「高」血圧についても基準(「以上」「以下」)の決め方で「高」とも言えるし、「正常」ともいえるなど。また、高額な検査装置(CTスキャンなど)は、できるだけ稼働率をよくしないと「赤字」になる(算術!!)、外科の医師は手術を多くしないと生活できない(経済!!)など、考えさせられることがいろいろあるようです。慶大医学部をトップで出てアメリカに留学もしたK医師は有名(不遇についても)ですが、帯津先生のように東大医学部出身の先生にも中々立派な先生が居られるものと感心しました。

妄言多謝、不一。

小木曾 建



ABK同窓生募金 (2010年6月～2013年7月)



同窓生をはじめたくさんの関係者のみなさまからご寄付をいただき

2013年3月に募金の目標額を達成いたしました。

その後も募金が寄せられましたが、7月をもちまして募金を
終了させていただきました。

心からお礼申し上げます。

- 目標額：5,000万円
- 募金額：58,392,125円
- 寄付者数：942件

2013/6/1～2013/7/31 募金者 〈 〉内は出身・在住国、地域、ABC順。

〈日本〉荻野正明、酒井杏郎、築山淳子、山田裕子、匿名1

〈マレーシア〉元ABK日本語コース・マレーシア卒業生有志

〈スリランカ〉N.P. チャンドラシリ / 柳晶 (中国) (来日)

2013年5月31日以前の寄付者(935件)

バングラデシュ A.K.M. Moazzem Hussain, Hashimoto Islam Nurul (橋本イスラム・ヌルール、在日)

ブラジル Alberto Tachibana, Alice Nakamori, Francisco Ishihara, Hashiguchi Mariuza, Hiromu Onishi (大西博巳)、Matsubayashi Marcia, Mizuma Tachibana Aiko, Nelson Yamakami, Sekiya Tachi-bana, Tomooka Tizuko, Yamauchi Atsushi Yamauchi Kazuko

カナダ Chang Sou Wah (張素華、香港)

中国 【C】Cai Jian Ping (蔡堅平、在日)、Chen Hong Zhen (陳洪真)、Chen

Xian (陳獻) 【D】Dai Zhi Jian (戴志堅 / 陳艷萍、在日、2) 【G】Gao Rong (高榮) 【H】Hironaka Gunji [広中軍二 (李軍、在日)] 【J】Jia Fu Zhong (賈鋪忠)、Jia Hui Yi (賈蕙萱)、Jin Qiu (金秋)、Jing Dong Huan (金東澣) 【K】Kuo Nan Yan (郭南燕、在日) 【L】Lee Chun Li (李春利、在日)、Li Chen Xi (李晨曦、在日)、Li Hui Chun (李惠春、在日)、李焱 (2)、Liu Ming Hua (劉明華)、Liu Ying Chun (劉映春)、Liu Yue (劉越、在日)、Lu Xin Yi (呂新一、在日) 【M】Meng Ling Hua (孟令樺 / 計宇生、在日、2)、Meng Xiao Xiao

(孟瀟瀟)【N】Ni Yu (倪玉)【O】Ou Yang Fei (歐陽菲、在日)【P】Piao Shun Yu (朴順玉)【Q】Quang Hao (全浩)【S】Sha Lian g Xiang (沙蓮香)、Shang Jie (尚捷、在日)、Sun Qian Jin (孫前進)【W】Wang Wei (王巍)、Wang Wen (王穩)、Wei Qing Ding (魏慶鼎)【Y】Yan Hao (嚴浩)、Yang Yi Fan (楊一帆)【Z】Zhan Xin (張新)、Zhan Xin Wang (張新旺)、Zhang Hang (張航)、Zhang Yong (張勇、在日)、Zhou Xiang (周翔・黃軼)、張建敏

ドイツ Heng Fu Chong (マラヤ)

香港 Chan Sui Ngan (陳小雁)、周順圭 (在米)、Choi Man Wa (蔡敏華)、Leung Chi Shun (梁志瞬)、曹其鏞 (Novel Enterprises Ltd.)、Yeung King Hong (楊經航) / 蔡金燕 (マレーシア)

インド AAWI (AOTS Alumni Association of Western India)、A. P. Wagle、ABK-AOTS Dosokai Chennai Center、Abul Sharah、Ashok Saraf、Grug Kumar (雅留宮久磨 (在日) / 澄子 (日本))、M. Ramamurthy

インドネシア Budhi Setiawan Kohar

イラク Mudhafar Al. Jabiri

カンボジア 忍足林基 (在日) / 美恵子 (日本)

日本【A】ABK 留学生友の会、赤星裕、新谷美紀子 / 美也子、安藤哲生、新井敬二・由利、新井重光、荒川雄彦、アジアの新しい風【C】Ch atty B.Q. (ワタナベ)、近山武子 (3)、千野克子【F】藤原一枝、深澤のぞみ、福讓二、福本一、古川恵世、古谷恵美子、布施知子【G】50周年事業委員会売上 (5)【H】濱田修、濱田洋子、浜崎長壽 / 和子、

秦幸吉、服部まさ江、橋口真人、林均、樋川好美、樋口淳、平井まりこ、平峯克、平岡昭子 (2)、平田熙、広江重徳、帆刈礼子、堀香奈美、堀幸夫、堀内智代子、星明廣、細川哲士、穂積五一先生追悼記念出版員会、穂積亮次【I】井出遊、飯沼英郎、池田俊二、池森亮介、池野朋彦・晶子、池添尚行、生田容子、稲垣敏彦、井上恵子、井上駿、犬塚雄大、伊佐玲子 (2)、稲澤宏一、石原廣、石原誉慎、石井信彦、石川毅・優子、伊藤郁子、伊藤順 (3)、伊藤源之 (2)、岩井秀明 (2)、岩井秀生、岩尾明、岩佐佳英、岩崎幸子【K】甲斐等、加倉井弘行 (2)、兼重節、兼重道雄、兼重智雄、勝部純基、香月富士日、香月恵美子 (2)、掛谷知子、亀山稔史 / 幸子 / 泰、金澤けい、河合秀高 (2)、川上剛 (2 ; 在スイス)、川崎依邦 [(株) シーエムオー] (2)、菊池幸子、北マツ、北川泰弘、北原千絵、北山文泰 (3)、倉部絹代、黒羽宏、小林浩、小林泰子、國府卓二、小宮信介、近藤壮一、金野隆光 (3)、是松恭治、久保哲也、久保木裕一郎、工藤正司、工藤幹雄 (6)、熊沢敏一、倉内恵孝、栗原静子 (2)、黒田一雄、黒羽宏、久津間優子【M】町田恵子、町田航、牧美保子 (2)、槇操、馬杉栄一、増田澄 / 芳子、松平吉世、松井正枝 (3)、松岡弘 (2)、松崎松平 (2)、眞山静子、眞弓忠、宮野尾光正、宮内俊治、水須善幸、森尾正照、森下明子、本木兼子、村田忠禧、村山秀男【N】中原和夫 (3)、中畠正喜 (2)、中嶋源吾、中元菅根 (2)、中村洋一、中野正明、中曾根信 (4)、根岸幸子、日本養生学会、西田祥子、西垣幸朋 (2)、西原彰一、西嶋勝彦、西川恵、西本梶 (2)、西村清人、西谷隆義 (2)、新田宣子 (2)、仁田裕子、野田 (小金

丸) 春美、野口明美、野村美知子 (3) 【O】小田中聡樹、小川巖、小川輝夫、小木曾大 (2)、小木曾建 (2)、小木曾友 (3)、小倉尚子、小原正敏、大西一郎、岡島昭治、岡崎道子 (2)、大木直美、大久保伸枝、大久保とも子、大野大平、大里浩秋大島雅子、大島光恵、岡部洋一、奥山節子、奥山義夫、大村光、小野寺武夫、小野里光博、大越英男、大澤龍、忍足絵美、忍足眞理、大杉立、大谷里恵子 【R】歴史学講座「創世」代表小嶋秋彦、六文会 【S】斉木史 (2)、斉藤雅史、齋藤美知子、齋藤やす子、酒井杏郎 (3)、榊正義・正子、酒巻彩乃、坂元ひろ子、三溝弘悦、早乙女和義・博子、佐藤郁夫、佐藤正文 (2)、佐藤玲、佐藤順子、澤登晴雄、澤登千恵子 (4)、関正昭、渋谷寧伸、重野幸子、清水国夫、清水勇治・泰代 (2)、篠塚景市、白石勝己、白石勤、白鳥文子、代田泰彦、尚美学園大学国際交流センター、染谷公久 (2)、染谷誠、總寧寺、曾根文子、菅原照代、杉本宏樹、杉浦貴和子、杉山健一、栖原暁、鈴木繁、鈴木秀明、鈴木智、鈴木八重子、鈴木順子 【T】田川明子、田口久美子、田口昌子、田尻英三、高道俊彦 (4)、高木桂子 (2)、高橋喜久江、高橋満、高橋作太郎 (4)、高橋幸枝、高橋雄造、高野靖子、高柳直正、竹林惟允 (3)、竹田肇・和子 (2)、竹嶋俊紀、宅間薫 (2)、田守智恵子 (2)、田中千佳子、田中雅幸、田中美智子 (2)、田中利恵子 (2)、田中紳一郎、田中多美子 (2)、田中稔子・静子、田中洋一、谷口哲雄、谷岡一也、寺門克郎 (2)、寺尾方孝・三枝子、寺沢宏次、田井満里 (2)、田井良知、田井亮吉、戸田清、鶴田純一・由美 (3)、東京華僑総会、富岡昭二郎、外山経子 (12)、豊島由久、土屋元子

(2)、土屋幸子、佃吉一 (2)、鶴尾能子 (2)、堤祐子 (2) 【U】内山敦之、宇戸清治、上高子、上田菜生、植田泰史 (2)、畝本昌介、漆鳥才子、宇崎雅雄 【W】渡辺譲二、【Y】飯下勝、山田健一、山田守一、山田裕子 (3)、山口憲明 (3)、山本斉、山本出、山本章治、山野井昭雄、山之内正彦・萩子、山下靖典、山海保、山崎光郎 (4)、山口誠、依田良子、横山昌幸、横沢喜久子、横山昌幸、吉原秀男、吉田裕子、吉田菜穂子、吉原エツ子、吉川英一 (在中国)、湯山佳代、匿名希望 (5名)

【韓国】崔銀珠 (在日)、Hahn Young Khoo (韓英鳩)、西原景哲 (在日)、Oh Bum Suk、Youn Seong Kook (尹誠國、在日)、Woo Su Keun (禹守根、在中国)

【ラオス】Chanthasone Inthavong (在日)
 【マレーシア】2012年ABK在館マレーシア留学生、2011年11月12日留日学生同窓会パーティー一同 【A】Adelyn Ngo、Amy Tan (陈春蓮)、Alan Tan Yu Poo、Amy Tan Choong Noi (陈春蓮)、Ang Gi Moh (洪以謀)、Ang Khooon Chye (汪坤才) (3)、Ang Lip Chee (洪立志)、Ang Sheng Feng (洪巧芬)、Ang Wan Leng、Apple Vacation & Conventions Sdn. Bhd. [苹果旅游有限公司; Koh Yock Heng (許育興)]、Ariel Cheng (鍾欣霖)、Aw Leong Gee (欧良義) 【B】Beh Chor Kim、Beh Teck Chuan、Boon Woo Seng (温武成) 【C】CM Aung、Cha Yee Seng (謝宇誠)、Chai Koo Peng、Chan Huan Pang (曾煥邦) (2)、Chan Kok Foo (陳国富)、Chang Chew Chin (張昭成) (4)、Cheang Chuan Ley、Cheang Sai Keong (シンガポール)、Charles Chow (邹贵璋)、Chaw

Kam Shiang (周錦生)、Cheah Soo Lin、Cheng Ja Chong (鄭捷聰)、Cheong Bee Nah (鐘美娜)、Chew Ching Seng (周昌盛) (2) /Low Kim Lee (刘金莉)、Chew Fook Keong (周福強) /Goh Ger Teng (吳月婷)、Chia Hong Hyiap (謝鴻業)、Chia Li Teck (謝礼得)、Chia Mee Hang (蔡美賢)、Chin Yok Wan (陳玉旺) (2)、Chin Saw Kiun (陳少勤、在日)、Chiu Jin Eng (周人英 / 林惠冰) (2)、Chong Piang Wee (张炳輝)、Chong Teek Foh (張德福) (2) /Chow Soo Lin、Choo (2)、Yun Fah、Choong Chee Yee、Choong Yoon Seng、Chow Kwee Lin (邹貴仁)、Chuah Yeon Hang (蔡耀漢) / Keong Chin Huai (強青懷)、Chuan Seong Tiang (Jeff Tiang)、Chuie Wai Kong (朱威金光)、Clifford Lee (李進才) 【E】 Ee Ley Tiong (余励忠) (2) 【F】 Fong Cheong Thiam (洪昌添)、Fong Wee Keat、Foo Hee Hiang (符氣強) (3)、Foo Keah Keat、Foo Ming Lian (符明蓮)、Foo Siang Seng (符祥盛) (2)、Foo Soo Kong (符素光) (2)、Foo Yuki (符優綺) (2) 【G】 Gan Kok Seng (顔国成)、Gan Seu Kian (顔綉涓)、Gan Teck Yeow (顔得耀) (3) /Tan Such Fang、Goh Peng Ooi、Goh Swee See (吳瑞獅) 【H】 Ham Poh Can (范宝权)、Ham Poh Chyan、Heong See Yoon (香世运) (2)、Hew Boon Thai、How Chai Nguan (侯再源) 【J】 Joan Wai Kim Foh 【K】 Kang Chin Yeh (江晋業)、Kenneth Wong Fook Shang (黃復翔) (2)、Kevin Ng (吳錦強)、Khu Hwa Leng (邱華龍)、Koh Hong

Hwee (許鴻輝)、Kong Guan Wie (江元偉) (2)、Kong Kwee Song (江回松)、Kong Sian Shih (江幸柿) 【L】 Lai Yoon Poh (赖永保)、劉・有村開順、Lau Kok Yong (刘国荣)、Lau Sau Hong (劉少峰、在日)、Lau Shiang Horng、Lau Weng Wah (刘润华)、Lee Check Poh (李志保) /Ng Sui Ying (黄瑞英)、Lee Chee Heong (李志雄)、Lee Kian Ling (李建霖)、Lee Kian Ling (李健霖)、Lee Kong (李廣) /Lam Chok Yak (2)、Lee Leong King (黎亮景)、Lee Liong Mui、Lee Miow Ying (李妙英)、Lee Mow Tiam (李茂添) (3)、Lee Tee Boon (李智文) (2)、Lee Tiam Hing (李天興)、Lee Yuet Keong (呂月強) /Kek Sai Fong (郭思坊)、Leong Khee Hoo (梁其和) (2)、Leong Thiat Eng (梁德榮) (2)、Leong Wing Sum (梁永森)、Lew Kim Song (劉金雄) (2)、Liau Kok Wee、Liaw CK (廖俊光)、Liew Teck Boon (劉德文) (2)、Lim Bok Hek (林木火) (2)、Lim Chee Tian (林志田)、Lim Chin Kok、林月秋 /傳亮 (中国)、Lim Chin Ee (林振意) (3)、Lim Chong Chan (林忠贊)、Lim Hock Lai (林福来) (2)、Lee Li Soon、Lim Liong Chu (林良住)、Lim May Yan (Mmrcia Lum May Yan) (2)、Lim Peng Jin (Scientex Japan Co., Ltd.)、Lim Sin Yean (林欣燕)、Lim Soon Hang (林顺桁)、Lim Suat San (林雪珊)、Lim Thian Huat (林天发)、Lim Yok Chai (林意財)、Loh KC (羅国俊)、Loke Hon Yee (陆汉宇) (2) /June Tan Soo Sin (陈素芯)、Low Cho Kee (刘助基)、Low Han Peng (刘汉平)、Low Kim Lee (劉金莉)、

Low Leong Meng (羅亮明)、陸培春留日センター、Lwee Lew Chen (雷柳菁)、Lwee Yuen Chiang (雷远江)、Lwee Yuen Tung (雷远东) 【N】 Na Chin Teong (藍振忠)、Ng Chee Meng、Ng Chin Keong (黃振強) (3)、Ng Chuan Aik (Tony Cang ; 黃泉毓)、Ng Eng Hooi (黃永輝)、Ng Kim Chai (黃金財) (3)、Ng Mee Wah (吳劍華) (2)、Ng Teong Guan (黃忠元)、Ng Thian Eng (黃殿英)、Ngiam Tee Seng (嚴世清) (3)、Ngwan Boon Ming (阮文明) 【O】 Ong Cheng Chuan (王清川)、Ong Cheng Han (王清漢)、Ong Ching Long (王建龍)、Ong Chooi Lee (王翠莉)、Ong Poh Heng (王宝慶) (2)、Ong Thye Beng (王泰明) (2)、Ong Wei Bing、Ong Yee Meng (王玉明) 【P】 Pang Choon Boon (彭俊文)、Pang Pow Kwee (方宝貴)、Pang Yuet Hueng (彭月紅)、Phang Siew Kiong (彭修強)、Poh Siew Hui (傅秀慧)、Puah Chin Chye 【Q】 Quah Saw Ting、Quah Soh Teah 【S】 Sam Cha Peng (覃澤平)、Seah Boon Chieng (謝文清)、Shia Wei Jong (余維忠)、Sia Ooi Poh、Siau Fook Siong (箫福祥)、Siew Kooi Kam (萧钜金)、Siew Moey Yen、Siew Soke Lee、Sim Ee Looi、Sim Eng Kang (沈永江)、Sim Kee Hong (沈其豐) (2)、Sim Kim Ling、Simon Liow (廖天發) /Ho CL (何俵伶)、Soo Ka Jin、Soo Kee Chee (蘇克智)、Soh Keh Woei (蘇克偉) (3)、Soo Seck Heng (苏锡兴) (3)、Soon Kian Seng (孫健勝)、SKK Kaken (M) Sdn Bhd、Soon Sai Kheng (宋世勤)、Stanley Lian、Su Kui Sheng

(蘇桂昇)、Sui Kwai Chan 【T】 Tan Ai Lak (陳愛麗)、Tan Boon Liang (陳文亮) (3)、Tan Chaik Kwang (陳澤光)、Tan Chee Kiong (陳志強) (2)、Tan Chee Teong (陳治中)、Tan Cheet Yong (唐志勇) (2)、Tan Chew Mooi (陳秋妹)、Tan Hwee Ing、Tan Keah Moh (陳佳茂)、Tan Kee Hang (陳繼漢) (4)、Tan Pang Tee (陳邦智)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan Peck Ming (陳碧明)、Tan See Seng (陳時生)、Tan Soo Sin (陳素芯)、Tan Wee Pin、Tan Wee Seng (陳为胜) (2)、Tang Eng Huat (陳永發) (2)、Tang Gek Eng (陳玉英)、Tang Kok Lian (湯国亮) (4)、Tang Miow Chin (湯妙晶) (2)、Tay Kiam Guan (鄭謙源)、Tee Choon Hong (2)、Tee Kian Meng、Teh Chong Yee (鄭忠義) (3)、Teng Kim Yin (鄧錦雲)、Teo Bee Hong (張美宏)、Teo Boon Lian (張文連)、Teo Chuan Soon (張川順)、Teoh Eng Choo (張映水)、Teo Kian Song (2)、Teo Kim Chuan、Teo Kwee Swee (張貴水) (2)、Teo Tiam Hwa (張添華) (2)、Teoh Eng See (張映絲)、Tey Khern (鄭勤)、Tey Kian Teong (鄭建忠)、Tham Kok Who、Thye Meng Yu (鄭茗友)、Tian Sew Ming、Tiang Chuan Seong (鄭俊雄)、Toh Leong Chee (卓良志)、Toh Peng (杜平)、Ung Yat Keat 【W】 Wong Chao Hsiung、Wong Chee Ken (黃啓耕)、Wong Chin Shuan (黃晉軒) (2)、Wong Choon Leng、Wong Fee Ping (黃慧萍)、Wong Jiunn Shyong (2)、Wong Ka Seng (王家成)、Wong Kim Choy、Wong Kim

2013/7/31 現在 ABK 同窓生募金国・地域別集計 (最終)

No.	国・地域	件数	合計額	備考
1	日本	416	24,478,515	含、団体、在外、同一人複数回 内、協会役員・評議員(除く、常勤職員)31 名・161.7万円、職員35名・859.4万円
2	マレーシア	354	14,961,836	含、団体、在外、同一人複数回、日本人 27、シンガポール1
3	タイ	51	6,856,007	含、団体、在日、日本人4
4	香港	6	5,170,000	含、在外
5	中国	47	2,685,000	含、在外、在日他
6	ベトナム	7	1,423,000	含、団体、在日
7	ブラジル	14	657,627	
8	台湾	14	600,000	含、団体、在日
9	韓国	7	420,000	含、在外、在日
10	シンガポール	8	380,140	含、在日
11	カンボジア	1	300,000	在日
12	インド	7	190,000	含、団体、在日
13	スリランカ	1	100,000	在日
14	ミャンマー	1	50,000	
15	バングラデシ	2	40,000	含、在日
16	インドネシア	1	10,000	
17	イラク	1	10,000	
18	ラオス	1	10,000	在日
19	パキスタン	1	10,000	在日
20	ペルー	1	10,000	在日
21	その他	1	30,000	
	合計	942	58,392,125	

Yong Hwee Yan、Yap Shin Woei (葉信偉)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yi Ko Marketing & Enterprise、Yong Cheng Yun (楊青雲)、Yong Hon Wee (楊漢威)、Yong Kian Teck (楊建德)、Yong Kok Lin (楊國霖)、匿名希望 (2) (B) 坂東慶彦 (F) 藤田陽一、深民崇夫 (G) 五条章二 (I) 石原政一、伊藤要、稲田幸司 (K) 越場直樹、工藤英弥、河野修、小松電機産業 (株) 代表取締役小松昭夫 (M) 松島武司、水田康広、水野伸明、森下治幸 (O) 大須賀稔晴、貞包物産 (株) (S) 柴田保、下村安秋、白石和也 (2)、SKK Kaken (M) Sdn Bhd (T) 田中公治、塚本秀幸 (Y) 山内一弘、山川勇人、山縣みさ、山根行弘
ミャンマー Aung Kyaw
パキスタン A. R. Siddiqi

Choy、Wong Kok Hoi、Wong Kuok Hung (黃國鳳)、Wong Mei Kin、Wong Seng Keng (黃成耕) (2)、Wong Sheong Chin (黃錦進) (2)、Wong Tzong Chyang (黃宗強) (2) 【Y】 Yap Men Fatt、YB Liang Teck Meng (梁德明)、Yeung King Hong、Yew Kuen Ying (姚群英)、Yew Siew Leong (姚瑞良)、Yong Chin Chew (楊清洲)、Yap Geng Yi (叶耿瑜)、

(在日)

ペルー Olga Shimada Keiko

シンガポール Chia Guan Sey (謝元生)、Foo Choo Wei (在日)、Foo Yong Tse、顏尚強、王發其、Tan Choon Shian、Wong Meng Quang

台湾 ABK 在館台湾留学生有志、張瑞騰、Chen Ai Chi (陳艾圻)、張忠信 (在日、2)、

李淑維(維維)、Lin Pi Chi(林丕継、2、在日)、林登居・斎藤ヒサ子(2、在日)、Liu Li Mei(劉麗美)、堤井信力(在日)、廖婉淑、陳俊銘(在日)

タイ 【A】 ABK and AOTS Almuni Association (Thailand)、Asami Hiroko(浅見博子、在タイ) 【B】 Bandhit Rojayanont 【C】 Chamlong Srimuang、Chanintorn Mekaratana、Chovet Yimsirikul 【D】 Ditdi Chatputtongul 【G】 Gannigar Koontanakulvong (2) 【I】 Itti Rittaporn 【K】 Kanzaki Sorda(神崎ソラダ、在日)、Kornkeo Praison-tarangkul、Kraisorn Throngnymchai(在日)、Krisada Visa-vateeranon 【M】 Meena Thamchaipenet、Mongkol Pianapitham 【N】 Navarat Srisuponvanit、Ngampho Patrawut、Niramai Thanatavee 【O】 Onozaki Tadashi(小野崎忠士、在タイ) 【P】 Patamavadee(Bongsayan) Narushiso、Phiphat Chaichanavichakij、Pilaipan Mekaratana (2)、Pisan Thanatavee、Pholchai Limviphuvadh、Pornanong Niyomka H.、Prayad Kongkasawad、Prayoon Shiowatana 【S】 Sathida

Mekaratana、Saowanee Patrakarn、Shintaku Hikaru(新宅光、在タイ)、Sivaporn Sirilatthayakorn、Sucharit Koontanakulvong (2)、Suchittra Hunbun-charkit (2)、Supong Chayutsahakij、Suthee Chutchaiwett、Suvit Vibulsresth 【T】 Technology Promotion Association (Thailand-Japan) (TPA; 泰日経済技術振興協会)、Thai-Nichi Institute of Technology (TNI; 泰日工業大学)、Tana Tang-trongsakdi 【V】 Vachiranee Limviphuvadh、Vachiraporn Limviphuvadh、Vilai Tomorakul、Virat Thiravathanavong 【W】 Wannadee O'sorup、Wiwut Tanthapanichakoon 【Y】 Yanase Shuzo(柳瀬修三、在タイ)、Yoshiko Limviphu-vadh

ベトナム Dao Thi Minh(在日)、Dong Du(ドンズー日本語学校)、Le Quynh Chi(在日)、Nguyen An Trung、Tai Anh Tien(在日)、To Buu Luong(在日)、Tran Thanh Viet(在日)

その他 2013ABK日本語学校卒業パーティー有志

<ご寄付者の皆様へお願い>

上記募金の芳名録銘板を作成中です。お名前のチェックをしていたただければ幸いです。もし、名簿に間違いがございましたら、お手数でもメール、FAX、お電話にて下記、募金担当までご連絡下さい。

メール : asca50com@abk.or.jp

Fax : 03-3946-7566 TEL. : 03-3946-4121 (代)

学校法人 ABK 学館設立記念式典及び新校舎竣工式のご案内

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、当協会が50周年記念事業の最優先課題として取り組んできました日本語教育部門の学校法人化が、本年7月1日に東京都の認可を得て実現いたしました。また、認可を得るために建設いたしました新校舎も本年3月下旬に完成いたしました。

また、これに先立ち、2010年6月から開始しましたABK同窓生募金は、不況、円高、2011年3月11日の東日本大震災、福島原発事故、タイ国の未曾有の洪水等、さまざまな困難を乗り越え、2013年3月末に目標額の五千万円を達成することができました。これはひとえに同窓生、会員の皆様はじめ内外関係者のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

つきましては、下記により学校法人ABK学館設立記念式典、新校舎竣工式を催したく存じますので、万障お繰り合わせの上、ご来臨くださいますようお願い申し上げます。

敬具

2013年9月吉日

財団法人アジア学生文化協会

記

(1) 学校法人 ABK 学館設立記念式典、新校舎竣工式、銘板除幕式

日時 2013年10月26日(土曜日) 11:00～12:30

式典 於、地下旧食堂

新校舎竣工式並びに寄付者芳名録銘板除幕式 於、新校舎

*なお、当日は在館生による近隣との交流を深めるABK秋祭りが開催されますので、各国料理が楽しめます。

(2) 座談会 14:00～16:00 於、101室

— 海外から来日の方、在日OBによる座談会 —

以上

*お手数ながらメール、Faxにて9月30日までに(1)、(2)の出欠の有無をお知らせください。お名前、連絡先(メール或いはFax)を必ずご記入ください。

出欠の宛先：メール：asca50com@abk.or.jp Fax: 03-3946-7566

ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人です。財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

協会のあらまし

名 称：財団法人アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込2丁目12番地13号

代表者：理事長 小木曾 友

設 立：1957年（昭和32年）9月18日
故穂積五一氏創設

目 的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

◆主な事業◆

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(社)日・タイ経済協力協会、ABK留学生友の会との連携・協力

◇会費（年額）◇

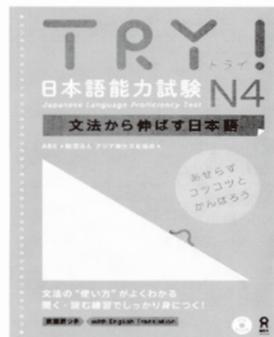
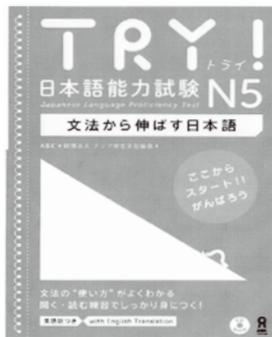
正会員 1口 1万円
賛助会員 1口 5万円
特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間3千円（学生2千円）でお送りしています。

本誌で広告してみませんか。

団体・企業を問わず、編集部へご相談ください。

ABK講師陣による「日本語能力試験」対策本登場！



(N1、N2) 1890円 (N3、N4) 1785円 (N5) 1575円

著者：アジア学生文化協会日本語コース 発行：アスク出版

後記

この夏の暑さは異常な暑さだ。東南アジアの真夏と変わらない連日の日照りとスコールは、豪雨と化し、雹が降ったり、これまで平野部ではあまり見られなかった竜巻さえ頻繁に起きている。極度な二酸化炭素の排出によるオゾン層の破壊で、南極北極の水棚、氷も溶け出し、今や海底の水温までも僅かながら上っているとのこと。この海底の水温の上昇が、気候変動に及ぼす影響が大きいという。やはり、我々人類は、遅きにあるが心の赴くままの消費生活を減速させるべく、一人一人が再考を迫られているのではないだろうか。(F)

学校法人ABK学館、ABK学館日本語学校がこの7月1日に認可、設立したが、いよいよ来年の4月の開校に向け、学生の募集がスタートした。これまでの協会の日本語コースの一部が、諸手続きの関係で暫く併存する。スタート時の複雑な事情もあり、新学校の責任者が各国を回り説明と募集を行っている。アジア地域の発展と日本の魅力の低下と原発事故の影響で留学生の数が減少傾向にあるなか、たくさんの同窓生を輩出しているABKたりとも学生の募集は苦戦を強いられそう。今後も関係者の皆様の見守りと応援を受けながら新しい学校をABK創設者の意を組んだ学校に育てるべく、努力を重ねねばと。(F)

アジアの友 2013年 8-9月号

2013年8月20日発行（通刊第504号）

年間購読（送料共）3,000円（学生2,000円） 1部 500円（税込）

発行人 小木曾 友
編集 アジアの友編集部
発行所 財団法人 アジア学生文化協会
東京都文京区本駒込2—12—13 (☎113-8642)
電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599
振替口座：00150-0-56754 E-mail: tomo@abk.or.jp
ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION
(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎+81-3-3946-4121 ☎+81-3-3946-7599

Email: tomo@abk.or.jp

Home Page: http://www.abk.or.jp/

「アジアの友」の購読会員（年3,000円・学生2,000円）にご入会下さい。振替用紙又は電話等にて。

